

2023年度 第1回教育課程連携協議会議事録

日時：2023年10月25日（水）14：00～15：00
形式：対面会議

総委員：8名

（名古屋功、木戸田力、堀田宗徳、後藤克治、東俊昭、本昌康、奥野善徳、木下孝治）

出席者：8名

（内 訳）

本人出席：6名（名古屋功、木戸田力、堀田宗徳、東俊昭、奥野善徳、木下孝治）

代理出席：2名（本昌康 代理：米田岳人、後藤克治 代理：舟山忠彦）

欠 席：0名

書面表決者：0名

随 行：1名（白山市 北村）

陪 席：岡内祐一郎、近藤昌朗、事務局

議 長：名古屋功（学部長）

【教育課程連携協議会次第】

1. 開会

2. 学長挨拶

- ・夏季に実施した臨地実習の協力御礼と、11月8日（水）に開催する体験報告会について案内がなされた。

3. 委員の紹介

- ・昨年度からの委員交代、新任に伴い自己紹介を行った。

4. 報告事項

（1）臨地実務実習について

- ・臨地実務実習委員長を務める堀田委員より以下の説明がなされた。

①臨地実習概要、受入企業への協力御礼。

②現在臨地実習Ⅰ（第1～2期）、臨地実習Ⅱ（第1期）まで終了。

春季に実施する臨地実習Ⅰ・Ⅱへの受入協力の依頼。

③本日参加企業以外にも株式会社八幡様、株式会社チャンピオンカレー様より協力を頂いている。

④8日の体験報告会に向け、現在学生視点から体験をまとめている。

学生からが学内の学びと現場のギャップを体験し、現場のやりがいと厳しさを理解できたと報告を受けている。

- ・臨地実習受入企業としての気づき、要望について、以下の通り意見があった。

発言者	内 容
舟山委員	今回泉ヶ丘店にて2名を受入れた。インターンシップ学生とも交流する機会を設けることができた。指導担当者からの報告では、学生2名とも礼儀正しく、明るく、店舗内でもなじんでいた。今後地元の企業として、学生目線の意見を聞くことができると感じている。
米田委員	実習を行う中で、社外秘の情報もあるので、その指導などが必要だと思う。
木下委員	大学と連携して、学生が魅力ある人間になるための教育なども必要ではないか。しっかり学ぶことができれば、食を志す学生の離職率も低いと期待している。
奥野委員	昨年度より3回実習を受入れた。企業としても店長の育成を目指しており、良い機会となった。代表取締役社長などの役職者に、毎回実習日誌を送らせていたが、今回学生の成長が感じられた。以前は強い指示を出してしまう場面もあったが、今回は店長の指導も慣れてきた。 また、日誌の字が汚くて読めないなので、事前に指導してほしい。経営トップも書類を見るという意識で提出してほしい。日誌に名前を書く欄がないので設けてほしい。 社内用語が企業によって異なるので、学生も慣れるまで大変かもしれない。(フロア・ホールなど)
東委員	現場実習の経験が大学の特色となると思う。ぜひ卒業後は白山市で活躍してもらえればと思う。

- ・各委員からの意見を受け、学部長からも熱心な指導に感謝を述べ、次回実習につなげたいとの説明があった。

5. 審議事項（別紙スライド参照）

（1）リカレント教育について

- ・学部長より、社会人の学び直し「リカレント教育」について概要説明があり、企業内研修でも活用できるとの説明がなされた。これに対し各委員より以下の質問や意見が上がり、学部長等よりそれぞれ回答があった。

発言者	内 容
舟山委員	【運用について】 学生の履修に企業も参加するイメージで良いか。どのような参加形式を想

	<p>定しているか。また、現在企業が外部契約している内容を、貴学が担う可能性もあるのか。</p> <p>→現時点では、科目履修生としての参加が可能。完成年度以降カリキュラムの編成が可能となるので、OJTとしての実施も検討したい。</p> <p>大学の使命である「地域貢献」として本学ができることがあれば検討したい。金沢工業大学のように、企業との共同事業を行う「ラボ」にもチャレンジできればと考えている。</p>
米田委員	<p>【講義内容について】</p> <p>パッケージデザインは学んでいるか？</p> <p>→展開科目として設置している。学生の自主研究にも「デザイン」をテーマにした研究内容があり、重要性が高まっている。</p>
木下委員	<p>【講義内容について】</p> <p>世界的な視点、世界の流れが速いので、その点をキャッチできるような学生になってほしい。インバウンドで日本食への興味が高まっており、食を考える時に海外の視点も必要になる。</p>
奥野委員	<p>【講義内容について】</p> <p>プロモーション面で困っている。コロナ以降変化しており、現在はSNSが人々の動く基準になっている。それに対応した人材がおらず、現在は他社から学んでいる。</p> <p>また、リーダーシップ、コーチングのスキルが必要。メンタルがやられる店長が増えてきた。若者が年上のパートをコントロールできないところもあり、パートが多い組織での課題。</p> <p>→フードサービス組織論の中で1コマ授業しているが、科目としてはない。体系的に教えるまで至っていない。</p>

(2) 産学共同教育・研究について

- 学部長より、現在本学で取り組んでいる学生研究員制度、テーマの紹介がなされた。産学共同で取り組める案件があれば、ぜひ行いたいとの説明があった。各教員の専門分野についても紹介があり、企業の研修内容と合致すれば派遣することができるとの説明があった。
- また企業実務の面から教育内容について、今後も企業の意見を取り入れ、授業改善や臨地実習に取り入れるとの説明がなされた。

6. 閉会